

第 29 回精華町環境推進委員会 会議要旨

会議名		第 29 回精華町環境推進委員会		
開催日時		令和 5 年(2023 年) 3 月 24 日(金)10:00～		
開催場所		精華町役場 図書館集会室		
出席者	委員	上甫木委員(委員長)、八木委員(副委員長)、畑中委員、寺本和生委員、寺本英樹委員、信田委員、岩本委員、鷹居委員、山本委員 (敬称略・順不同)		
	事務局	健康福祉環境部環境推進課：竹島課長、土井課長補佐、奥村係長(敬称略)		
		(株)地域計画建築研究所(アルパック)：中川(敬称略)		
		応用技術(株)：安部、白石(敬称略)		
傍聴の可否		可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合、その理由				
会議次第		<p>1. 開会あいさつ</p> <p>2. 議事</p> <p>①次年度の進め方について</p> <p>②一般廃棄物(ごみ)処理基本計画及び災害廃棄物処理計画(案)について</p> <p>3. 閉会</p> <p>資料①：令和 5(2023)年度精華町環境推進委員会スケジュール(案)</p> <p>資料②-1：精華町一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(中間見直し計画)(素案)</p> <p>資料②-2：精華町一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(中間見直し計画)(素案)概要</p> <p>資料②-3：精華町災害廃棄物処理計画(素案)</p> <p>資料②-4：精華町災害廃棄物処理計画策定について</p> <p>参考資料：第28回精華町環境推進委員会会議要旨</p>		

1. 開会あいさつ

- ・環境推進課長あいさつ

2. 議事

①次年度の進め方について

上甫木委員長 来年度は地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定に向けて忙しいそうだが、いつ頃からスタートするのか。

事務局 環境省の補助金をいただいて7月頃のスタートになる予定である。

上甫木委員長 出来るだけ早く、また事前に進めることができることは進めていただければと思う。

畑中委員 ここ数年、愛知県の自治体職員向けに区域施策編の策定の仕方を教えることをしている。自治体の力量によって策定の仕方にも幅がある。極端の話、環境基本計画の章として策定する自治体もいる。市町村で自前で作るケースもある。毎年、10弱の自治体に対して個別研修を実施している。小さな町であれば自力で出来るものであり、難しい話ではないと捉えていただくとよいかと思う。

上甫木委員長 そういうことであれば、同じくらいの行政規模の自治体の情報を集めてプロセスも含めて検討をお願いしたい。

山本委員 竹林に関するご意見について、竹林だけでなく、農地も稲作が主にされているが、所有者と農地が釣り合っているわけではなく、人口が減少する中で、難しい状況が予測される。

竹林だけでなく、田んぼも課題となる。お金にならないという話がある。若い世代が専従してくれない。景観や農地を守るということについて、しっかり考えないと難しくなる。

上甫木委員長 今のご意見も含めて、検討を進めていただければと思う。

畑中委員 バイオマス発電は技術的に難しい。普通に燃やすとだめで、全国でチャレンジはされているが、だいたい失敗している。バイオマスボイラーで唯一動いているのは淡路である。バイオマスの発電は難しい。とはいうものの、バイオマスボイラー、熱利用の技術はなんとか確立されている。やっぱりマテリアルとして活用することが重要。

タケノコ出荷やハウス資材としても使われなくなったという実情がある。自然素材として使っていくことが良い。

春先にタケノコを蹴るなど、最低限、拡張していくことを防ぐなども

一緒にやっていく必要がある。

岸和田では竹のプロジェクトをやっており、アドベンチャーワールドのパンダの餌として使い、そして建材および地域のバイオマスボイラーとして活用する計画を立てている。

京都の方では竹スルメを作っているケースもある。本来の食料、材料として活用することをセットで考えると良い。

上甫木委員長

里山については、環境基本計画のリーディングプロジェクトとして掲げているが、里山で活動している方とも一緒に検討をお願いできればと思う。

もし、この意見を出された方が参画されていないなら、お誘いするなどもしてはどうか。

畑中委員

ぜひ、一緒に勉強しながら考えていくことが大事である。気持ちは大切にしたらよい。

上甫木委員長

事例を見ていると、国産メンマづくりに取り組んでいるところもある。

精華町の環境プラットホームは活動を活性化していただければと思う。各計画の周知という意味もある。また、地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を策定する際の情報収集などと絡めながらしっかり動かしていただきたい。

②一般廃棄物(ごみ)処理基本計画及び災害廃棄物処理計画(案)について

上甫木委員長

前回皆さんにいただいた意見をもとに、先ほど説明があったような修正内容を加えた上で、町民の方にパブコメをされたということである。パブコメでは、一般廃棄物の方で1件の意見が出て、その対応を今後、検討をしていくということ、災害廃棄物の方は特にパブコメでの意見はなかったということである。

八木委員

2021年に環境省から高齢者のごみ出しについてのガイドラインが発表されていると思う。

例えば、私が住んでいる桜が丘地区では、5年後の高齢化率が35.9%ぐらいの計算になり高齢者ばかりになる。そんな中でごみステーションの方法では難しいのではないか。

地区にごみステーションは60～70か所くらいある。遠いところは200～300mくらい歩く。私は80歳であり、私のごみを出すステーションは70m歩いて22段の階段がある。先ほどの説明でなるほどなと思うところはあるが、ステーションが家の近く20～30mくらいにあればそういうことが言えるが、実態はそういう距離にはない。

20～30世帯に対して1カ所のステーションである。私は青パトで毎日巡回しているが、ステーションでゆっくり話をするような状況ではない。ほとんどの方が7時30分～40分くらいの間に小学生を登校させ、ごみを出してすぐに帰る。そのような人が大半であり全体の7～8割を占めると思う。のんびりしているところであれば、この方がよいかもかもしれないが、ごみを出すことすら大変な状況である。その中で何をすべきか。

このような社会課題の中から、環境省のガイドラインが出たと理解している。

町議会でも意見が出ているのに考え方に進歩がない。抜本的な考えをなおしてほしい。10年後にはみんな高齢者になる。一歩でも出来る範囲で前進してほしい。

私は戸別収集が良いと思っている。精華町の半分くらいの地域で戸別収集をしている。なぜ、ごみステーション方式が前提で話されるのか。長期ビジョンで考えてもらいたい。現時点ですぐには変えられないなら、当分は、例えば75歳以上でごみ出しがしんどい人についてはごみ出しのバックアップしようという検討が出来ないか。私の家の前をパッカー車が走っていて、家の前の賃貸住宅の収集をしていく。パッカー車が前を通るにも関わらず、歩いてごみステーションまでいかなければならない。本当にこれが常識なのか、検討してほしい。喫緊の課題としてお願いしたい。

上甫木委員

八木委員の方のご意見がありましたけども、役場の方もある程度そのあたりは認識をされてるかと思うが、事務局からご発言をお願いできればと思う。

事務局

今のご意見について、ガイドラインが環境省から出ており、全国的な課題となっている。このガイドラインは、何らかの理由でどうしても出せないという家庭、一人暮らしの方とか高齢者の方とか障害の方についての支援をまず先行するというものがある。

精華町でもさきほど話があったように、議会でも話があった。極端な

話では全部戸別収集にしたかどうかという意見もあった。しかし、今の計画の中で町の方針として、ごみの収集方法はステーション方式としている。そこは10年見通したらどうだというご意見はあると思うが、高齢者の方の問題があるということは認識している。福祉の部署等とも話はしているが、直接環境推進課への問合せもなく、実態がつかみきれていない。また、福祉の方に確認しても、様々な福祉サービスとか、支援を使われて出されてるのではないかという認識である。役場の中の連携不足で申し訳ないが、もう少し実態を掴んで本当に出せない人からまずは対応していかなければという認識をしている。引き続き、福祉部署と環境部署で話をしながら、どこにまず手を差し伸べていったら良いのか、実態をつかんでいきたい。直営収集もあるので、中で回れるくらいなら試しにやっていきたい。

八木委員

私は自治会連合の代表であり、桜が丘地区の幹事をやっているが、地区に5,300人いるが、相談した結果として意見を言っている。今度4月に総会があるがこの問題を大きく取り上げている。どんどん高齢化が進む。例えば4人世帯だった世帯も、子どもが巣立ち、親だけになり、最後は一人になる。

この問題は今に始まったことではない。私は5年ほど前から言っているが、失礼ながら役場は何も聞いてくれない。財源の問題はあると思うが、私は有料になってもいいと思う。税金上げてもいい。または、木津川市方式でゴミ袋を有料にする。そういう方法でもいいと思う。

せめて、例えば後期高齢者や独居老人の希望を吸い上げてはどうか。自治会通じて意見を集約してもよいのではないか。

そんなに難しい議論が必要なのか、私にはよくわからない。

上甫木委員長

実態が不明といわれているが、高齢化の状況やステーションの分布などをまずしっかり把握していただくとともに、お住まいの方のご意向も踏まえながら検討が必要である。

コストもかかる話だと思うので、みんなが分かる情報にして、しっかり議論することが重要である。

畑中委員

今のお話はごみの収集だけの問題ではない。現在、兵庫県でSDGsと脱炭素をテーマに人材育成をしているが、今年7期生の修了生が検討したテーマで、「オールドニュータウン」の再生について取り上げていた。かつてのニュータウンがオールドタウンになり、ごみの収集の他にも様々問題が出てくる。そういう意味では、精華町もそろそろオールドタウンをどうするかという話が必要である。ごみの話だけじゃないと思う。セットで議論していかないとごみ収集をどうするか、だけでは答えがでないのではないか。千里ニュータウンからスタートし、神戸の西のエリアでもオールドタウンをどう再生していくかという議論をしている。その点も視野に入れながら、精華町もオールドニュータウンをどうするかという話をする必要がある。八木委員も言われていたように、コストとのバランスも当然住民の方もわかってる上での議論なので、そこは少し視野を広げて議論していく必要があると思う。

八木委員

実態がわからないというが、一日歩いてみたら分かる。調べてみたら良い。このあたりは厳しいなども分かるはずである。提案しているので、ぜひ、積極的に現地を調べて欲しい。また、私は個人的意見ではなく、地区の意見として発言させていただいた。

岩本委員

私の自治会は、三つの地域に分かれている。旧在所と50年前に開発された地域とそういうのが三つ混在してる。50年前にできた地域は道路幅が広くパッカー車が通れる地域である。旧在所はパッカー車の通れない狭い地域で構成されたエリアである。

お話聞くと戸別収集とステーション収集が混在している。世帯人員数は2.4～5である。ご存知のように核家族化・高齢化も進んでいる。

そんな中、高齢化が進んでくるとごみステーションまで持っていけないという問題が発生した。住民の方と話し合い、隣組同士でゴミを捨てる場所を決めて、ごみステーションは廃止にしようとした。そうすると、隣組で場所も決めていただき、分別も収集日もきっちり守っていただけるようになった。これは隣組の協力がなければできない。全体ではなく、まず隣組で話をして、そして、町の環境推進課と話し合えばいいのではないかと思います、参考として意見させていただいた。

八木委員

道が狭い地域の事例としては、先ほどのお話はよく分かるが、私のと

ころは道路幅が広いところばかりである。目の前をパッカー車が走っている。

畑中委員 先ほど申し上げたオールドタウンの神戸では150万人いる。それを個別に住民の意見を聞いていたら、まちづくりはできない。そういう場合、まちづくり委員会ができ、そこで地域で案をつくる。行政が全て考えるのは難しい。地域と行政が具体的に議論して、より良いものにしていくことが大事だと思う。

上甫木委員長 先ほどの八木委員の意見を聞いて、地形条件が非常に厳しいところである。昔の一つの単位で20戸は計画論としてはわかるが、それが地形条件から考えて、10戸くらいはや小さい単位で考えることが必要。そして、危なくなく、近くに運べるとかの検討をしてみてはどうか。地形条件や高齢化の状況とかを踏まえたときに、どんな単位で一番効率的に出来るのか、行政におまかせしてもなかなか難しい。行政に入ってもらうのはいいと思うが、地域で考えていただくのがよい。その地域からの具体的な意見に対して町の方もちゃんと対応していただくということが大事かと思う。

信田委員 切実な問題だと思うが、今日は2計画を決める必要があるということで良いか。

上甫木委員長 意見は前回いただいており、その意見を踏まえてパブコメをされているので、こういう方向で進めていくという報告である。具体的に検討するという場ではない。

信田委員 今の問題だが、ゴミステーションというのはハード的な話である。区画の話なので、それを増やすっていうのは難しい話だと思う。

前回、お聞きしておくべきだったのかもしれないが、データについて聞きたいことがある。

一般廃棄物の計画の9ページについて、産業構造が記載されているが、これはどのように定義され区分されているのか。対象は精華町の住民の職業か。

事務局 国勢調査のデータである。精華町に住まれている方の実態である。

信田委員 土地利用のグラフがあるが、祝園分屯地は入っているのか。

事務局 入っていない。

信田委員 P23 に集団回収が減少傾向であるが原因は何か。

事務局 様々な原因があると思うが、新聞をとられていない、地域で回収されているなどにより収集が減っているようだ。

八木委員 桜が丘では7年前がピークで、今は3分の1から4分の1である。量も減っているが、単価も減っている。

事務局 道路沿いに民間の収集場所が増えている影響もあるのではないかと思う。

信田委員 26 ページに掲載されているごみ処理実績について、精華町でも1.5倍ぐらいに増えているが原因として考えられることはあるのか。

事務局 打越台環境センター当時、旧木津町のごみが民間に流れていた。新しい施設になり、処理能力が上がり、民間にまわっていたものが戻ってきている。これは精華町だけでない全体の実績になる。

信田委員 事業系ごみが増えてるという話があった。商業施設や飲食等との関連あるのか。

事務局 事業系ごみは、環境施設組合に事業所が持っていかれる、もしくは事業系の収集運搬の許可業者が持っていくゴミになることから、飲食店ということだけでなく、事業者が増えていることが要因の一つである。いくつかの店では、直接資源化されている店もある。木津との合算になり、木津も増えている。

上甫木委員長 それでは一般廃棄物と災害廃棄物の処理計画については原案で町の方で進められる。

一般廃棄物に関して様々な意見が出ましたので、今後に向けて検討と改善をお願いしたい。

他にこれからに向けてご意見があればお伺いしたいと思う。

精華町の目標設定はここであると、企業側に精華町の基準を示していただけるとよい。もう少し連携をしていただけると、目標がはっきりするのではないかと思う。

上甫木委員長 環境基本計画では企業との連携を10年間の非常に重要な事柄として挙げているので、具体的に何をするか動かしていただきたい。

畑中委員 コロナでこの間、難しかったと思うが、来年は地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を策定される。私が市町村の職員に伝えているのは、大企業はほっといてもいい、中小企業への対応が課題であると伝えている。大企業は排出量は多く見えるが、もうほっといてもグローバル競争の中で下げざるを得ない。問題は中小企業をどうするかということである。そこがポイントである。今、スコープ3ということでサプライチェーン排出量をどんどん下げていくという動きになっている。この1年ぐらいでかなり動きが加速している。企業の方が動きが大きく早い。そのあたりも含めて来年少し一緒にワイワイと検討されるといいんじゃないかなと思う。

次年度はそこに重点を置かれてはどうかと思う。

上甫木委員長 この環境推進委員会は年3回であるが、環境プラットフォームの場で、勉強会や協議の場を持つなども考えられるのでお願いしたい。

住民の方だけでなく、企業の存在というのは精華町の非常に大きな特徴だと思う。両方に目配りをしながら、しっかりとやっていただけたらと思う。それでは、今日の環境推進委員会はこれで終了にしたいと思う。

3. 閉会

本日は、高齢者の問題、企業との連携などご意見いただいた。令和5年度は、先ほど示したスケジュールを進めていければと思うので、引き続きよろしくお願いしたい。